



倒壊したビニールハウス＝20日、北海道安平町

# 北海道地震 全道被害額

## 農業130億円 林業270億円

### 厚真・安平・むかわ町をルポ

6日未明の最大震度7の北海道地震から1週間たちました。道内の産業に甚大な打撃を与え、いまでも道民の生活を脅かし続ける大震災。厚真、安平、むかわ町の被災者は、被害は「1人災も含まれ」と憤りをあらわにしています。(高橋拓丸)

道内では、農地の断裂やビニールハウス、納屋、家畜小屋の倒壊が相次ぎ、農業被害は130億円以上(20日現在)になります。揺れによる被害だけでなく、電気や水道といったライフラインが受けた傷も、いまだ根深く刻まれています。

2万8千人が避難している安平町の水道復旧率は21日現在で93・2%。313戸がいまも断水し、水道管の破裂が各所で確認され、同町は、完全復旧は10月にずれ込む可能性があるとされています。

同町の新米(しんせい)で農業を営む小谷正芳さん(68)。家族やボランティアとともにカボチャやブロッコリーを収穫していますが、水道は止まっています。「車を出して公民館へくんでくるしかない。畑の後はあつくり風に入ることできます。震災から気が安らぐ時がない。水が1カ月も止まるなんて冗談じゃない」と疲労をにじませます。

店東厚真発電所の停止で始まった全道295万戸のブラックアウト

# 産業・道民生活へ打撃

ト(全域停電)で農家の被害は、いっそう拡大しています。

小谷さんの場合、仲卸業者の冷蔵庫が動かせず、出荷が2日間完全ストップ。出荷できなっても作物は待つてくれない。ブロックリ3000株(30万円)を廃棄した」と話します。

農家の宮崎義廣さん(69)も「農業用水は井戸水が使えるが、地震後は電気が止まっていたから、水をくみ上げるモーターも動かせなかった。復旧まで自家発電でなんとか持たせたが、水が以前になかった濁り方をしている」と話します。

### 冷凍設備停止で

市街地で家屋が軒並み倒壊(町全体で全壊から一部損壊まで136軒)。堤防に復旧の亀裂が入る被害が数回発生しているむかわ町。鶴川漁協は、船や仕掛け網の被害は小さかったものの、停電による冷凍設備の停止で、6日から11日にかけて操業を中止せざるを得ませんでした。

停電の影響は水産加工業にも及びました。「保存ができないので数百斤の魚を捨てた」と話すのは、町内に店を構え、鮮魚や干物を取り扱う西川隆志さん(80)。「1つ電気が戻るとか、教えるのかわりに、仕入れの再開ができたはず。近所で電気がついていないのを見、電力復旧を知った」といいます。

自宅兼店舗は倒壊を免れましたが、隣接する加工場は解体を余儀なくされました。現在は加工場内にあった高さが何メートルの大型冷凍庫だけが屋外に置かれています。「10月のししも解禁までは、屋根をつけて冷凍庫を使えるようにしたい」と、町の農業被害は、1億5800万円にのぼり、うち約1億3000万円がトマトです。

### 住宅兼店舗は倒壊を

免れましたが、隣接する加工場は解体を余儀なくされました。現在は加工場内にあった高さ何メートルの大型冷凍庫だけが屋外に置かれています。

鶴川農協の北村修代表監事(日本共産党町議)は「落下や、選別機の破損、保管していた分もつぶれ、大きな打撃を受けました。イモや大豆の被害もあるし、地割れた畑も新たに確認され、被害額はこれからまだ広がります」と述べました。

家族と避難所で生活している男性(36)は「小学生の長男は、ほかの子たちと遊んでいる屋間は大丈夫ですが、夜の消灯をとても



むかわ町の農業施設で被災の影響を聞く日本共産党の紙留子参院議員(左端)、島山和也前衆議議員(右から2人目)ら19日

怖がる。地震からしばらく夜が真っ暗だったのが怖かったんだと思います。停電は完全に人災です。1カ所が壊れたら全部止まるような仕組みになっておいて、避難所まで節電を押し付ける電力会社に、正直、怒り心頭です」と憤りました。「地震は自然災害でも被害を大きくしたのは人災です」と東京からのボランティア、遠藤浩さん(39)。「停電で数日間、人の流れも物資の流れも大幅に遅れていた。今週やっと切りや段ボールベッドが入った避難所も多い。人も物資も支援が必要な状況です」と力を込めました。